



神社本庁

『過疎地域神社活性化推進施策』指定神社

期間…令和三年七月一回〜令和九年六月三十日



ともかき

第 3 1 号

発 行：妻垣神社社務所
宇佐市安心院町妻垣 203 番地
発行日：令和 7 年 6 月 10 日
電 話：0978-44-2519
<http://www.tumagakijinnja.com>

↑ 共鑰山の本宮拝殿跡地へ整備された道を進む宮司と総代たち

約100年ぶりに共鑰山にて本宮祭を斎行

「元宮」から「本宮」へ呼称を統一

現在、共鑰山の磐座である足一騰宮を「元宮」と呼称し、祭典も「元宮祭」と表記していますが、当社の古い文献や史料を紐解くと「本宮」「奥宮」「元宮」と時代によってバラバラ。特に「元宮」の表記は戦後からで、それ以前は「本宮」と表記されていることが多く散見されます。

そもそも「元宮」とは「かつてそこにあった社」という意味合いとして広く使われます。当社では創祀以来、磐座に比咩大神を祀り、山裾の社殿には比咩大神を始め、三柱の神々を奉斎しております。

以上のことより、本年より磐座の呼称を「**本宮**」に統一。また現社殿についても過去の文献に照らし合わせて、今後は「**本社**」と呼称することと致します。

当社では毎年4月下旬、共鑰山の足一騰宮にお鎮まりになる比咩大神（玉依姫命）の大祭「本宮祭」を斎行しております。かつてこの神事は昭和初期まで共鑰山の中腹にあった拝殿において執り行っていましたが、建物の老朽化に伴い止む無く解体。現在は本社の祓所に祭壇を設けて執り行っています。

近年、共鑰山へ詣でる人が増え、参拝者が安心してお参りいただけるよう、昨年秋に参道の一部（入口から拝殿跡地前まで）を鉋砕バラスで敷き固める舗装工事を実施しました。そこで本年は約100年ぶりに整備された拝殿跡地に祭場を戻して行うこととし、祭典当日は宮司を先頭に総代や一般参列者と共に本社より列をなして祭場へと進み、小鳥たちのさえずりや木々のこすれる音の中、厳粛な祭典が斎行されました。



←現在の工事の様子 新たな参道は現参道の左側に。横幅も広くなる。

本宮足一騰宮へ詣でる 参道新設工事实施中

当社ではご参拝の皆様に清々しく、そして安全にご参拝いただくため、社殿の修繕や境内の環境整備活動を、総代氏子一丸となって懸命に努めております。

本年度は近年、参拝者が増加する本宮への参道を整備するため、昨年に実施した第一期工事に続いて、その続きとなる拝殿跡地から本宮までの間に、新たに緩やかな参道を造成する第二期工事を実施することとなり、現在、工事が着々に執り進められています。

本事業に賛同いただき、ご奉賛を希望される方は下記の内容で募集しております。詳しくは社務所までお問い合わせ下さい。

《募金方法》 ※銀行振込もしくは現金書留でご納金願います。

◎銀行振込… ゆうちょ銀行

記号17250 番号12602981

口座名義 妻垣神社 (ツマガケジンジャ)

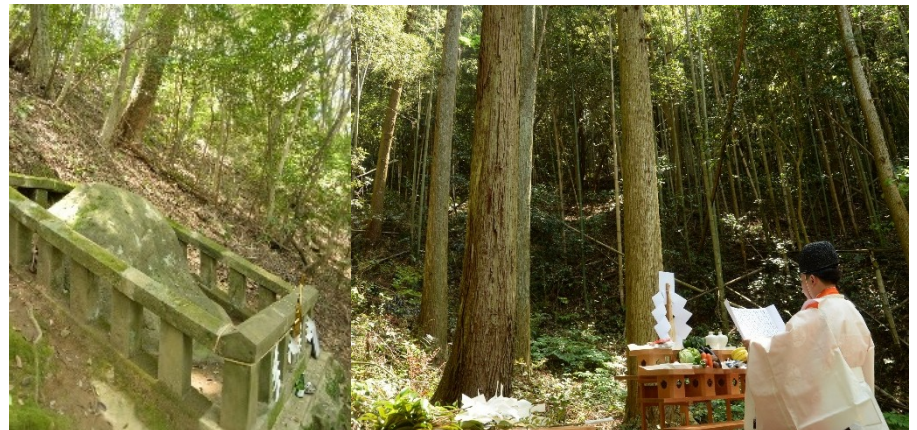
◎現金書留送付先… 下記の住所まで送付ください

〒872-0506 大分県宇佐市安心院町妻垣 330 番地の 1

妻垣神社社務所 (☎0978-44-2519)



←本宮へ登る階段は15年前に氏子である故小野久夫氏による手作り。今回の工事では現状のものを活かしながら登りやすいものに作り替え、横には新たに丈夫な手すりが付けられる。



←本宮足一騰宮に向かって祝詞を奏上する宮司

天平神護元年(765)創建

今秋、1260年祭を斎行します

本年、令和7年は全国八幡社の総本宮宇佐神宮が今の地(亀山)に一之御殿が創建されてより1300年を迎えます。その宇佐神宮と縁の深い当社に於いても、奈良時代の天平神護元年(765)、宇佐宮の八幡神が勅使石川朝臣豊成に対し、社殿創建の御神託を下されてより今年で1260年目を迎えます。

当社では節目ごとに式年祭を斎行しており、今年の秋季大祭(例祭)は千二百六十年祭として執り行うことが先般の総代会にて了承されました。内容につきましては今後の総代会にて協議し、その都度皆様へお知らせしたいと存じます。

祭典日…令和7年10月25・26日



←平成27年斎行の1250年祭。社殿の大修理を実施。

特集 人みな神の御子の思想のもと、多くの若者が学んだ

NO.4

騰宮学館 誕生110年

私学「騰宮学館」は大正2年に若き神職林正木によって妻垣神社境内に創設された中等教育校である。戦後の学制改革までの30数年間、1200名の学生を世に輩出した。今回は元西日本工業大学沢井正美教授の論文「騰宮学館の成立と展開」の卒業生数名のインタビュー記事をもとに当時の授業内容を紹介する。

上鶴 林 (昭和6年卒)

学館には広い運動場があり、毎年、山中部五ヶ村の小学校対抗体育祭が開かれ、他にテニスの試合などがあって(学館の学生は)村童のあこがれの的であった。

入学後は幸い常直として学館に住み込むことができ、そこで自炊した。お陰で学費も要らなかった。

学科の内容は当然中等学校に相当するものだったが、音楽は教員の資格とるために教則本など色々と勉強させられた。学館にはオルガンが一台しかなかったのだ。夜はロウソクの明かりで練習したものだ。教育学や学校管理等の科目は検定試験前だけであり、教育実習は安心院や館長の出身校の龍王小学校に行った。

当時は成績が良ければ一年(15歳)で尋常小学校准教員の資格が取れ、二年(16歳)で正教員の資格が取れていた。音楽専科の資格を得るためには、尚一年在籍する必要があった。



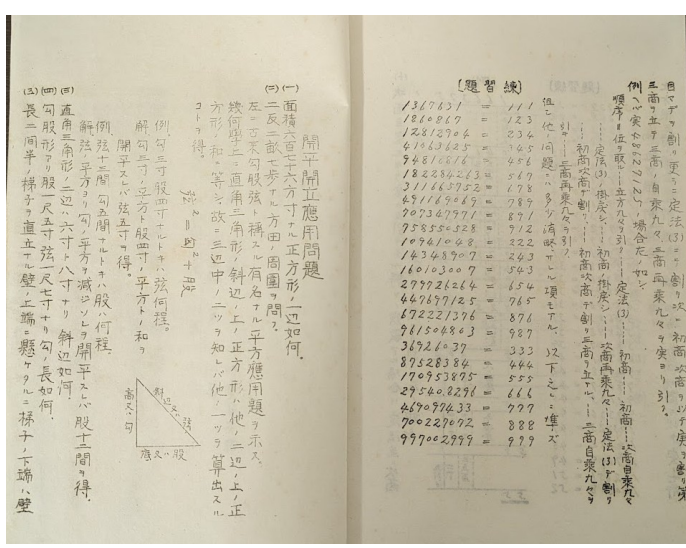
→学館にておこなわれた出征を題材にした演劇や弁論大会の写真

佐藤 孝好 (昭和12年卒)

授業科目には国語、作文、漢文、代数、幾何、博物、物理、化学、音楽、図工、体育等があり、何故か英語はなかった。

この学校には卒業して教員を目指す者と、神職を目指す者が入学していたので、国語では神皇正統記や漢文に力が注がれ、教員を目指す者には心理学などが講義されていた。

神職はこの学校を卒業すると5円(※)収めれば二等神職、10円収めれば一等神職の資格がもらえ、それぞれ学館長の紹介で各地の神社に見習いとして務め、研修を受けて宮司になっていった。教員の方は卒業後に3ヶ月の教育実習があり



→学館で実際に使われていた珠算の教科書

その後検定試験を受け、合格すれば小学校の教員になった。中には卒業後に師範学校に進学し教員を目指す者もいた。

※1円を現在のレートで換算すると約1万円

糸永 松喜 (昭和17年卒)

一学年の生徒の数は35人。当時の中等学校としては少数精鋭の、しかも一人ひとりの生徒に教師の目が良く行き届く学校であった。

「学館を出た者に悪いはいない」というのが、この学館に対する地域の人々の評価であったし、またそれが生徒達の誇りでもあった。

飯田 克巳 (昭和18年卒)

学校の授業は教職員の勤務の都合から日曜日にも行われ、他の学校と違って月曜日が休みであった。一年の時の地理や歴史は二年の教員専攻の生徒が高等小学校の教科書を使い教えてくれたが、その他は小学校原職の校長か主席訓導(教頭)、または三席であった。

入学試験は無かったし、勉学を希望する者があれば、いつでも誰でも入学を許可していた。時には県と再三交渉し、被差別部落の子どもにも教員の資格を与えたこともあった。が、勉学を怠り、成績が悪ければ即時退学であった。

半年に感謝し、半年を祈る

なごしおおはらえ

夏越大祓祈願祭

6月29日(日)午後3時 30 分より

雨天時でもおこないます



当日の早朝、神職が海岸で汲んできた潮水で心身共に浄めます

③ 潮搔神事

しおかき

① 人形流し

半年間、健康に過ごせたことに感謝し、自身の代わりに「ヒトガタ」を共鑰山の御神水で浄めま



② 茅の輪くぐり

ちわ

半年の無病息災を祈って、茅の輪をくぐります。茅の輪は7月中旬まで設置しております。



茅の輪御守

無病息災・延命長寿を祈って奉製した期間限定の御守です。

一体 500円



風鈴まつり

「短冊に願いごとを託して」

期間：6月～9月上旬まで

願い短冊200円(材料費、防水加工済み)

大雨による災害対策として 市道参宮線排水工事 はじまる



先々号で大雨による災害対策をお知らせしましたが、この度、宇佐市が三か年をかけて排水工事を行うこととなりました。工事を実施する神社前の参道は宇佐市道参宮線のため、市が担うこととなった次第です。
昨年度は三之鳥居前から神社の倉庫までの間が整備され、今年度はその続きが予定されています。